

京都大学

京都大学フィールド科学教育研究センター研究林・試験地 100 周年

現在も残っている京都大学の演習林の中で最も古い芦生研究林は、1921年4月に99年の地上権契約のもと始まった。2020年4月に新たに30年の契約を京都大学と南丹市の間で締結し、2021年4月に京都大学フィールド科学教育研究センターの研究林・試験地は100周年を迎えるため、2020年度に式典・講演会などのイベントや寄付金キャンペーンを行った。

研究林100周年記念式典・講演会を2021年度3月15日に開催した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、オンライン開催した。旧農学部附属演習林の関係者や農学部林学科の卒業生、全国大学演習林の教職員、自治体の関係者など約300名が参加した。式典では、研究林100周年記念ビデオ（YouTubeにて公開中 https://youtu.be/TqfeN_kfN8I）を上映し、湊長博京都大学総長、西村良平様（南丹市長）、菊池博之様（文部科学省高等教育局）、山下多聞先生（全国大学演習林協議会副会長）による来賓祝辞をいただいた。続いて講演会「芦生研究林の100年の歩みと新たな30年:様々な生き物が棲む森へ、多様な人がともに学ぶ場へ」では、芦生研究林の教員、若手研究者、地元地権者による講演を行い、総合討論では、各登壇者から、今後の芦生研究林に望むこと、また研究林の教職員や研究者への助言や激励の言葉が述べられ、講演会は盛会のうちに終了した（映像は、京都大学 OCW <https://ocw.kyoto-u.ac.jp/course/1026/>で公開中）。

関連して、2020年8月21～30日に京都府立植物園にて写真展「芦生の天然林と着生植物」（京都府立植物園・芦生生物相保全プロジェクト主催・芦生研究林後援）が開催され、また9月10～29日に京都丹波高原国定公園ビジターセンターにて写真展「大きな森の小さきものたち～活動で見つけた！自然写真展～」（芦生研究林・京都丹波高原国定公園ビジターセンター 共催）を開催した。技術職員、教員、研究者、市民研究者、ガイドなどが撮影した写真を展示し、多くの一般市民に芦生研究林の自然の貴重さとそこで活動する様々な人を紹介した。

また、芦生研究林基金において100周年記念キャンペーンを8月10日から実施し、5000円以上の寄付に対し返礼品として天然アシウスギと広葉樹材のコースターを贈呈した。樹齢150年を超えるアシウスギの風倒木の材を利用し、技術職員が搬出、加工・研磨、刻印をした。旧農学部附属演習林の関係者や農学部林学科の卒業生にも寄付を呼びかけ、用意したコースター236枚をすべて贈呈し、約6ヶ月でキャンペーンを終了した。これらをもとに留学生やトランスジェンダーの学生などにも配慮した施設整備を行った。さらに今後、シカの食害からの豊かな森の再生や先進的な教育研究を進めていく予定である。



研究林100周年記念式典・講演会の様子
（オンラインで開催）



芦生研究林基金100周年記念キャンペーンの
返礼品のコースターと説明パンフレット